

MGI016-P03

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

アジア寒冷圏のデータ公開サイト : Asia Cryosphere Data Archive Project

Asia Cryosphere Web Site : Asia Cryosphere Data Archive Project

川本 温子^{1*}, 矢吹 裕伯², 兒玉裕二², 大畑 哲夫²

Haruko Kawamoto^{1*}, Hironori Yabuki², Yuji Kodama², Tetsuo Ohata²

¹海洋研究開発機構・地球情報研究センター, ²海洋研究開発機構

¹JAMSTEC, ²RIGC, JAMSTEC

本プロジェクトチームでは、主にアジア寒冷圏を対象としたデータのアーカイブ、品質管理および公開を目標とし、現在作業を進めているところである。アーカイブ対象は、主に雪氷関係の観測データ（地上気象、積雪、凍土、氷河、高層、水文、湖沼、写真、雪氷関係文書）および二次プロダクト（衛星プロダクト、分布図）である。このデータサーバは登録作業が完了したデータセットから順次、試験公開する（2010年2月予定）。開発の第一フェーズでは、既存のデータアーカイブ情報を整理しそれらを元に新たにメタデータを定義・作成した。このメタデータは Extensible Markup Language (XML) で表記し、インターネット上での相互利用へ対応している。

ホームページ上で扱うデータは、フォーマットの観点から4種類（地点観測データ、写真画像データ、高層観測データ、グリッドデータ）に分類し、一般ユーザが検索・閲覧する際のカタログ表示形式やクイック検索機能およびアクセス権限に違いを持たせている。なお、地上観測データのように細かい粒度が含まれるデータに関しては、粗い粒度の情報に細かい粒度の情報を含ませる形で記載できるようメタデータの構造を工夫した。

今後予定している第二フェーズ以降では、データの種類を増やすことが第一目的である。そのためには、1)データ提供者である現地のカウンタパートを掘り起こし、2)彼らが自らメタデータを作成できる環境を整え、3)データ提供者とデータサーバ管理者の間のフィードバックを密に執り行う体制を維持することが大切と考えている。当日は、これらの問題について多方面からの意見をたまわりたい。

なお、本プロジェクトで扱うデータの一部は、Asia Climate and Cryosphere (Asia CliC)の関連データであり、データを使って生成される二次プロダクトはData Integration & Analysis System (DIAS)へのインプットとしても提供される。

キーワード:寒冷圏,メタデータ,粒度, Asia CliC, DIAS

Keywords: cryosphere, metadata, grain, Asia CliC, DIAS